

訪問リハビリテーション従事者のための

人材育成ガイドライン

第2版



公益社団法人 日本理学療法士協会

一般社団法人 日本作業療法士協会

一般社団法人 日本言語聴覚士協会

人材育成ガイドライン改訂にあたって

(一財) 訪問リハビリテーション振興財団

研修班 班長 露木 昭彰

理学療法士、作業療法士が誕生してから 50 年が過ぎ、その間、人口分布、社会保障体系、住民の暮らしぶりなど多くの要素が変化してきました。我々の活動するフィールドも求められている内容も潮の満ち引きのごとく、外力により、その形は変わっていきます。今昔、訪問リハビリテーションに従事している方々は、常に最高最善の対応を心掛け、日々研鑽に励み精進していることに変わりはありません。しかし、世の中の流れに適合し、上手に泳いでいくためには旧態依然のリハビリテーションでは、立ちいかなくなってきています。

そのような中、平成 26 年度に「人材育成ガイドライン」を整備しました。これにより、全国各地で行う訪問リハビリテーション従事者に対する研修会の方向性、レベル分け、目的等、共通理解が出来るよう可視化されました。更に従事者だけでなく、管理スキルも身に付け、安定的なサービス供給に向けた組織構成が出来る人材を育成するため「管理者養成研修会」へと進む流れを作ることが出来ました。PTOTST の 3 職種が同じ方向を向き、同じ歩みを進めていくことは、これまでになく、本ガイドラインの存在により明確に表現されました。今後も日本の社会保障制度の充実に 3 職種協働で取り組むための指針として本ガイドラインが役割を果たせるよう期待しています。

この度の、医療介護同時改定において、リハビリテーションが大きくクローズアップされ、インセンティブの導入も今後の潮流になる予兆が確認出来ます。在宅におけるリハビリテーションも訪問リハビリテーションを中心とし、要望が増強、複雑化しています。これまでのように医学的リハビリテーションに囚われてばかりではなく、本来の役割である、全人間的復権に向けた動きが当たり前になることが急務であります。ICF の定義の元、自分らしく生きていくため、自分の人生に参加するため、今回の改訂では、ストレングスアプローチ、主体性、就労、ICT、地域包括ケアシステム、まちづくり、保険外サービスなどのキーワードを新たに加えました。今一度、我々の目指すべき旗印を共有し、ともに向かっていくためのバイブルとして本ガイドラインを活用していただきたくお願いいたします。

毎年開催される「訪問リハビリテーション地域リーダー会議」にご参集いただく各士会のリーダーの方々のご尽力を始め、会員各位の協力により、第 2 版を完成することが出来ました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。何より本ガイドラインを有効活用し、本財団が向かう方向を新ためてご理解いただき、住民生活に即した自立支援、重度化防止に資する訪問リハビリテーション事業所の制度化を目指して行きたいと思いを込めています。一日も早く、国民の幸せのためリハビリテーション専門職が思う存分、活躍できる制度となりますよう真摯に実直に共に歩みを進めていきましょう。

目 次

訪問リハビリテーション従事者のための 人材育成ガイドライン

人材育成ガイドライン改訂にあたって

露木 昭彰（一般財団法人訪問リハビリテーション振興財団 研修班 班長）

第1章	2030年の訪問リハビリテーション従事者のあるべき姿……………	3
	松井 一人（一般財団法人訪問リハビリテーション振興委員会）	
第2章	ガイドラインの使用方法……………	5
第3章	研修会体系について……………	6
第4章	カリキュラムフレームと2018年改訂のポイント……………	9
第5章	シラバス……………	16
第6章	実務者研修会について……………	50
第7章	全国で統一した名簿管理システムの構築……………	53
第8章	参考資料	
	資料① 受講証	
	資料② 受講証明書	
	資料③ 履修確認票	
	資料④ アンケート用紙	
	資料⑤ 研修会実施報告書	
	資料⑥ 災害・緊急時の研修開催の判断	
	資料⑦ 3協会と訪問リハビリテーション振興財団の関係図	

一第1章—2030年の訪問リハビリテーション従事者のあるべき姿

(一財) 訪問リハビリテーション振興委員会

松井 一人

2025年を目途とした地域包括ケアシステムでは、在宅医療の推進を大きな柱としています。この5年間の診療報酬、介護報酬改定等、制度の流れを見ても、その内容に「リハビリテーション」という文字が多く記されるようになっていきます。その中でも特に、診療報酬では、急性期医療によるリハビリテーションの役割がより明確になると共に、在院日数の短縮に向けた施策が推進されています。一方、介護保険領域においては、短期集中のリハビリテーション、さらには自立支援に向けた施策、また、新たな介護予防の枠組みの創設等、在宅ケアにおけるリハビリテーションの重要性は、さらに増していると考えます。この先は、2030年に向けた訪問リハビリテーションをはじめ、地域包括ケアシステムの柱となるような人材を育成することの重要性を感じています。

私たち理学療法士、作業療法士、言語聴覚士においては、この施策の流れとその背景を正しく理解し、次の時代に求められる力を携える必要があると考えます。また、この期間に開催されている社会保障改革国民会議等においても、これまでの病院完結型医療から、地域完結型医療へとその重要性が謳われています。また、「介護ニーズと医療ニーズを併せ持つ高齢者を地域で確実に支えていくためには、訪問診療、訪問口腔ケア、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問薬剤指導などの在宅医療が不可欠である。」とされています。このような公的文書で「訪問リハビリテーション」が明記されたのは初めてのことで、これまでは訪問看護に含まれるという解釈で推移してきました。我々にとっては非常に重要な出来事です。

その背景が、85歳以上の高齢者がこれから加速的に増加する中で、多様で複数の慢性・急性疾患を持ち合わせる利用者が急増し、その対処は医療機関への入院期間中に完結できるものではなく、地域において支えていくことの重要性を示唆しています。

これに対し私たちは、多様な疾患を複数抱える対象者に対するリハビリテーションの提供や、また、多死時代にむけ終末期の利用者に対する、右肩下がりの経過をたどる利用者に対するサービスの提供など、これまでにあまりフォーカスされていないフェイズに対する適正な対応が必要になります。

この一端を垣間見ても、今後、在宅ケアにおいても、急性期から亜急性期にかかわる変化に富んだ利用者に対する、医学的疾病情報を正しく深く理解すると共に、これまで以上に理学療法・作業療法・言語聴覚療法が、それぞれの職能に立脚した高い専門性を発揮すべきであり、その深掘をできるような人材育成が求められるようになると思います。一方、その医学的観点のみならず、そこに立脚しつつ、本人家族の困りごとや希望、QOLという

観点から、利用者の望みや背景を正しく理解し、現実とのギャップをその利用者の課題と捉え、そこに対するリハビリテーションアプローチを考えるという視点も重要になります。

一方、今後、地域包括システムの構築に向け、中央集権的な施策の推進から、自治体ごとのご当地モデルの地域ケアの施策の構築が求められる中で、我々の役割もさらに多様に求められるようになります。地域課題に対する解決の策について、多職種と共に考え、提案し、また、具体的な事業推進への関与ができるような人材育成も重要となります。具体的には、地域ケア会議でのケースについての意見を専門的視点から発信したり、また、地域ケア推進会議等にて街の課題を建設的に提起し、同時にその解決策などについて他の地域の職種や団体の皆さんと共に考え、行動したりする能力も求められるのです。さらに、今後さらに進む高齢化の中で、1次予防から3次予防までを俯瞰的にとらえ、地域の背景や特性に合わせた、住民啓発や通いの場の提案、運営にかかわる一連の介護予防の施策に対しても、リハビリステーション専門職の力が期待されているところです。

この一連の地域ケアを取り巻く背景等を考えたとき、予防・急性期医療から生活期、終末期と広い視点で物事をとらえることができると共に、子供たちから高齢者までの広い視座を持ち合わせるリハビリテーション専門職の育成がこれまで以上に重要になり、この一翼を担う人材こそが、訪問リハビリテーションに携わるリハビリテーション専門職であると考えます。

今回のガイドラインの改定は、そのようなことを踏まえ、就労支援、ICFに則った強みを活かした対応としてストレングスリハビリテーション、地域ケア会議への関り等の内容を盛り込み、日本の訪問リハビリテーション従事者が、そのパフォーマンスを如何なく発揮できる体制を築くことができる人材育成ができるようにと作成しました。

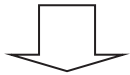
この人材育成ガイドラインをもとに、望ましい人材育成を全国で実施し、訪問リハビリテーション従事者の皆さんが、自己研鑽に努め、真に国民の信頼を得ることができる専門職として成長できる礎になることを期待します。

－第2章－ ガイドラインの使用方法

本ガイドラインの使用方法を下記に示す。

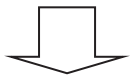
手順1

第3章に掲載する研修会の種類とそれぞれの研修会の関係性について把握する。



手順2

第4章の「カリキュラムフレーム」は訪問リハビリテーション従事者のスキルアップに必要であるとする各研修会の科目を整備したものである。研修会を企画する際に「研修科目」を参考とし、役立てる。



手順3

第5章の「シラバス」では、「研修科目」の詳細を掲載した。研修会を企画する際に「シラバス」を参照し、講師依頼に役立てる。



手順4

第6～8章で実務者研修会の運営方法を確認し、必要な手続きや資料を把握する。

一第3章 研修体系について

本ガイドラインが取り扱っているのは下記の訪問リハビリテーションに特化した研修会であり、図1、図2に示される通り各々の研修会を段階的に受講することで、訪問リハビリテーション従事者一個人の養成・育成から、事業所の管理者の養成・育成までを描いている。

第3章ではそれぞれの研修会の概要と研修体系について説明する。

1) 訪問リハビリテーション実務者研修会（初任者・現任者）

訪問リハビリテーションの従事者を育成・養成するための研修会を全国で開催するため、平成22年度に各都道府県から代表者に参集いただき地域リーダー会議¹⁾（当時は「地域リーダー育成研修会」）を開催した。この会議をきっかけに平成22年度以降、各都道府県において毎年、訪問リハビリテーション実務者研修会（名称が異なるものもある）をPT、OT、ST士会の協力のもと開催することとなった。

平成26年度からは訪問リハビリテーション実務者研修会の受講を以って、後述の管理者養成研修会STEP1を受講することが可能となる。また実務者研修会の受講者数を計上し、訪問リハビリテーションに従事している療法士の量的担保と質の確保を示すものとしている。

2) 訪問リハビリテーション管理者養成研修会（旧管理者研修会）

3協会が主催。各士会にて開催された実務者研修会を受講したものに応募資格が与えられる。STEP1～3の段階の研修会で構成されており、STEP1から順番に受講していく。管理者養成を目的としているため、1つの研修会は3日間の受講期間を要するものになっている。STEP1は毎年複数回、STEP2とSTEP3は毎年1回の開催が予定されている。

3) 訪問リハビリテーション管理者研修会（旧フォローアップ研修会）

3協会が主催。管理者養成研修会を全て受講したものに受講資格が与えられる。管理者としてだけでなく、地域で活躍する訪問リハビリテーション従事者を養成・育成すること、全国におけるネットワークを形成すること、訪問リハビリテーションを生業とした実務及び管理能力を更に向上することを目指した内容となっている。毎年1回の開催を予定。

1) 地域リーダー会議

平成22年度から開催。47都道府県のPT、OT、STの各代表者が参加し、訪問リハビリテーションに関する3協会合同の活動について意見交換、情報交換をおこなう場として開催している。毎年1回東京会場で2日間開催。

訪問リハ研修体系

(H26年度から実施)

実務者研修会 (内容は各県士会による)

初任者研修 未経験者・初任者を対象、訪問リハ入門

現任者研修 訪問リハ従事者が対象、訪問リハスキルアップ

士
会
主
催

受講者

管理者養成研修会 (旧管理者研修)

STEP1 要件:実務者研修会受講者
臨床経験4年以上

修了者

STEP2 要件:STEP1 履修者

修了者

STEP3 要件:STEP2 履修者
3協会 会長名での終了証発行

修了者

3
協
会
主
催

管理者研修会 (旧フォローアップ研修)

管理者ネットワーク研修／スキルアップ研修／講師育成研修

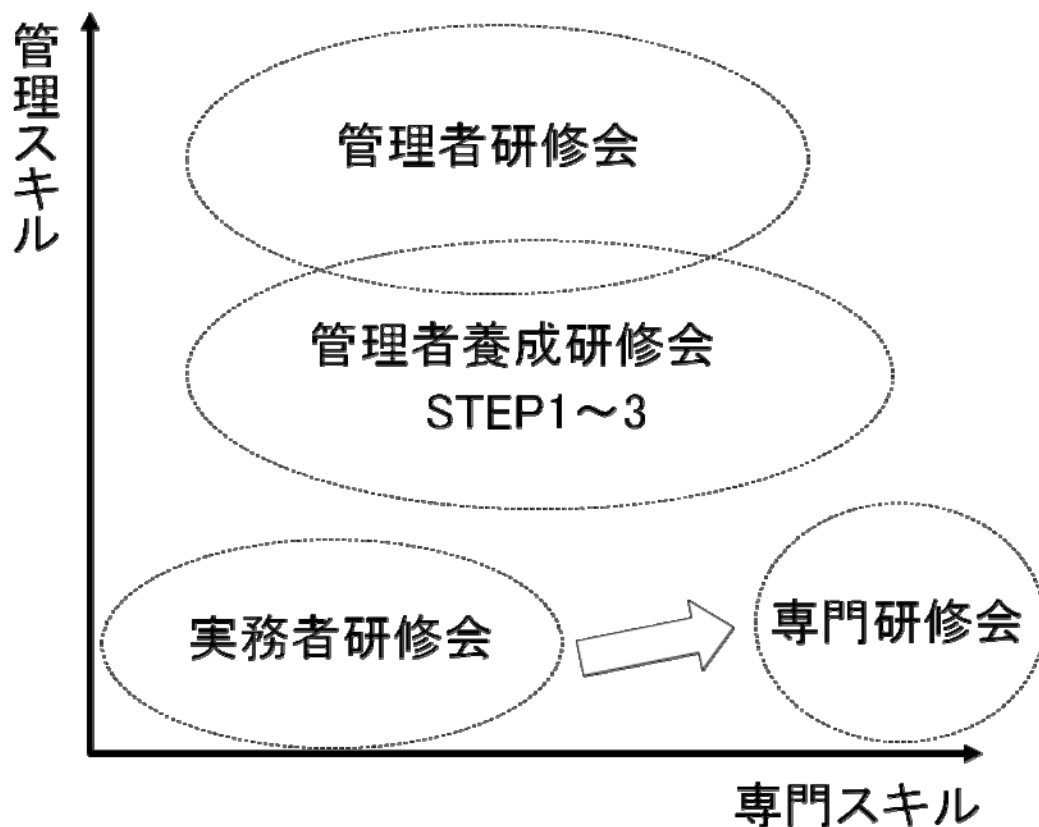
図 1 訪問リハ研修体系

訪問リハ研修体系のマトリクス

(H26年度から実施)

3士会、3協会でこれまで開催されてきた実務者研修会、管理者養成研修会、管理者研修会の関係性をより明確なものにし、より質の高い訪問リハサービスの普及促進を図る。

管理スキル: 管理業務に従事する訪問療法士に必要なスキル
専門スキル: 訪問療法士に必要な専門職としてのスキル



より質の高い訪問リハサービスの普及に向けて、管理スキルの向上に軸足を置いた研修事業を推進していく。

図2 訪問リハ研修体系のマトリクス

ー第4章ーカリキュラムフレームと2018年改訂のポイント

1. カリキュラムフレームについて

訪問リハビリテーションの人材育成においては、従来の医療的なスキルの向上から生活を支援するスキルまで幅広い学習項目がある。これを設計図なしで学ぼうとすると、偏りがでるため、自ずと得手不得手が生まれる。その結果、療法士によって対応できたりできなかったりという質の不均衡が生じるため、業界全体として訪問リハビリテーションサービスの質の向上を促すことが困難になる。このため、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会の3協会、都道府県士会、各訪問事業所、各個人が一定の枠組みを共有しながら、より専門性の高い訪問リハビリテーション従事者を育成していくための「研修会カリキュラムフレーム」を人材育成の原点として作成した。

このカリキュラムフレームは訪問リハビリテーションの人材育成において、全国47都道府県で開催される「訪問リハビリテーション実務者研修会」と3協会が合同で開催する「訪問リハビリテーション管理者養成研修会」および「訪問リハビリテーション管理者研修会」を平成26年度から一体的かつ段階的な研修体系と位置づけ、3協会合同で体系的な人材育成を行うために準備を進めてきた。カリキュラムフレームを見開き2項にまとめることにより研修科目や段階といった全体像をイメージしやすくした。

各都道府県で開催される「訪問リハビリテーション実務者研修会」において、テーマや内容の作り込みで苦慮するという意見が挙げられていたこともあり、企画の際の参考となるようなガイドラインとして作成した。研修科目、研修形態、(コマ数※)、概要やキーワード例を参考に、研修会を計画的に企画・開催することが可能となる。

訪問リハビリテーションの従事者には、自己のスキルアップを計画する際に学習課題を確認するためのツールとして活用を推奨する。

※コマ数：カリキュラムフレームの研修科目の講義時間数。1コマ×90分で算出。実務者研修会の研修科目の講義時間については「シラバス」に参考となる講義時間を掲載している。

カリキュラム全体の人材育成の基本骨格は、以下の 3 項目からなる。これらを踏まえて各研修会において人材育成を進める。

- ①東日本大震災のような大規模災害が起こった時に、医師の指示がなくても対象者の全身状態を把握し、必要なリハビリテーションアプローチを提供できる訪問リハビリテーション従事者を育てる。
- ②活動・参加につなぐリハビリテーションアプローチを提供し、主体的かつ生きがいのあるその人らしい人生の再建・地域参加を促す事ができる訪問リハビリテーション従事者を育てる。
- ③これらの活動を通して、国民の生活の質の向上と医療・介護における社会保障費の抑制を推進し、社会に貢献していく。

1) 訪問リハビリテーション実務者研修会

実務者として医療職・専門職の基本技能と社会人としての心得を身に付け、質の高い訪問リハビリテーション従事者を養成するための専門研修科目で構成されている。

「基本スキル」とは、訪問リハビリテーションを提供するにあたっての基本的なスキル。

「医学的対応スキル」とは、訪問リハビリテーションを提供するにあたって、より高度な医学的対応を行えるようにするためのスキル。

「生活コーディネートスキル」とは、個別性のある対象者や生活に対して療法士の専門性を活かして全体を調整するスキル。

実際の各都道府県での本カリキュラムフレームの運用においては、研修科目や研修形態、概要、キーワード例を参考に企画・運営を推奨する。必ずしもこの内容と一致した研修を実施しないといけないのではなく、参考資料としてご活用いただきたい。

2) 訪問リハビリテーション管理者養成研修会

管理者としての管理技能を高め、職場や地域における対応能力の高い訪問リハビリテーション従事者を養成するための管理研修科目で構成されている。

「管理運営スキル STEP 1」とは、管理者入門をテーマとした管理スキル。

「管理運営スキル STEP 2」とは、管理スキルアップをテーマとした管理スキル。

「管理運営スキル STEP 3」とは、事業運営管理入門をテーマとした管理スキル。

3) 訪問リハビリテーション管理者研修会

管理者としてのネットワーク作りや更なるステップアップを促し、地域で活躍する訪問リハビリテーション従事者を養成するための上級管理研修科目で構成されている。

「管理者ステップアップスキル」とは、地域ネットワークの強化やスキルアップ研修、講師育成研修を含む上級管理スキル。

2. 2018 年カリキュラムフレーム改訂のポイント

今後の少子高齢社会の流れ、それに伴って変化している社会保障システムを鑑み、2014年に作成した人材育成カリキュラムの研修科目名やキーワード（講義内容）の追加や変更を行った。詳細は以下の通り。

A：専門研修（実務者研修会）科目における追加・変更
社会資源・地域貢献の拡大：訪問リハステーション、改訂版人材育成ガイドライン 自立支援の推進：学習性無力感、強みの評価、ストレングスアプローチ 当事者の主体性の向上：成功体験、アイデンティティの再構築 当事者目線の強化：学習性無力感、葛藤、療法士への要望 科学的介護の推進：ADL 評価（FIM、BI）等 感染予防の強化：対象者の感染予防、従事者の感染予防 連携の強化：医師やケアマネジャーの連携、看護師との連携 同職種連携の強化：クリニカルパス、パーソナルパス、情報提供 実践的リハマネジメント力の強化：事例検討（成功事例、失敗事例、困難事例等）
B：管理研修（管理者養成研修会）科目における追加・変更
訪問リハと通所リハの一体的運営の推進：通所リハ ICT 普及促進：ICT による医療介護連携、業務記録、労務管理 トピックスの追加：管理スキルアップトピックス 訪問リハ資源の拡大：新規事業所開設等 就労・商い活動支援の強化：一般就労、内職、アルバイト、有償ボランティア等 総合事業への貢献：地域ケア会議、地域リハ活動支援事業、訪問 C 等
C：上級管理研修（管理者研修会）科目における追加・変更
社会資源・地域貢献の拡大：訪問リハステーション、地域リハコーディネーター等 トピックスの追加：災害時対策、在宅リハビリテーション科学等 まちづくり活動の推進：行政・医師会・看護協会等との連携、地域向け自立支援研修会開催 医療・介護保険外サービスの推進：自費リハ、教育的リハ、職業的リハ、人材派遣等

訪問リハビリテーション従事者研修会 カリキュラムフレーム 2018年 改訂版

						研修会名
＜訪問リハビリテーション人材育成の基本骨格＞ ①東日本大震災のような大規模災害が起こった時に、医師の指示がなくても対象者の全身状態を把握し、必要なリハビリテーションアプローチを提供できる療法士を育てる。 ②活動・参加につながるリハビリテーションアプローチを提供し、主体的かつ生きがいのあるその人らしい人生の再建・地域参加を促す事ができる療法士を育てる。 ③これらの活動を通して、国民の生活の質の向上と医療・介護における社会保障費の抑制を推進し、社会に貢献していく。						研修テーマ
						主な対象者
						視点
						実施主体
						研修目的
コード	基礎スキル	研修形態	コマ数	概要	キーワード例	
A01	地域包括ケアシステムにおける訪問リハの役割	講義		地域包括ケアシステムにおける訪問リハ役割について学ぶ	少子高齢社会、地域包括ケアシステム、自助・互助・共助・公助、市区町村介護保険計画、社会における訪問リハの役割	
A02	訪問リハ振興財団の活動と訪問リハ人材育成ガイドライン	講義		訪問リハ振興財団の活動と訪問リハ人材育成ガイドラインを学ぶ	訪問リハ振興財団の組織と活動、訪問リハ人材育成ガイドライン、都道府県実務者研修会、管理者養成研修会、管理者研修会	
A03	訪問リハに関連する介護保険・医療保険等制度	講義		訪問リハに関連する介護保険・医療保険等制度を学ぶ	介護保険制度、医療保険制度、加算対応、障害者総合支援制度、制度の仕組み、医師・ケアマネジャーとの連携、法令順守	
A04	訪問療法士としての倫理・役割・心構え	講義		専門職として、組織人として、人としての倫理・役割・心構えを学ぶ	専門職として、組織人として、人としての倫理・役割・心構え、社会的責務、法令順守、地域貢献	
A05	訪問リハ実践の基本的考え方	講義		訪問リハの基本的な見方、考え方を学ぶ	訪問リハの専門性、在宅支援の基本、ニーズとホープ、ICF、リハマネジメント、ストレングスモデル	
A06	新規訪問のための準備から初回訪問の組立	講義		新規利用者への訪問準備から初回訪問の組立を学ぶ	新規利用者対応、訪問準備、携帯品と使い方、初回訪問の組立、記録・書類作成、医師・看護師との連携	
A07	当事者の学習性無力感と主体性の回復	講義		当事者の学習性無力感と主体性の回復について学ぶ	学習性無力感、抑うつ、主体性の回復、ストレングスアプローチ、意欲の湧く生活目標、成功体験、ピアサポート	
A08	訪問リハ評価からリハプログラムの立案	講義・演習		訪問リハ評価からプログラムの立案までの流れを学ぶ	訪問リハ評価、強み評価、生活機能予後の予測、意欲の出る生活目標の立て方、リハプログラムの立案、計画作成	
A09	訪問リハで有用な評価指標と効果判定	講義		訪問リハで有用な評価指標と効果判定について学ぶ	認知機能評価、高次脳機能評価、身体機能評価、ADL評価（FIM、BI）、IADL評価（FAI等）、生活圏評価（LSA等）	
A10	訪問リハ事業所、訪問看護事業所の運営の実例	講義		訪問リハ事業所（病院・老健・介護医療院）、訪問看護事業所の運営の実例を知る	訪問リハ事業所（病院・老健・介護医療院）、訪問看護ステーション、医療保険・介護保険システム	
A11	接遇・対人援助技術	講義・演習		接遇及び対人援助技術について学ぶ	サービス業としての接遇、ビジネスマナー、訪問時のマナー、対人援助技術、クレーム対応	
A12	心身機能・活動・参加に対するアプローチの実例	講義		心身機能・活動・参加に対するアプローチの実例を学ぶ	心身機能アプローチ、活動（ADL・IADL）アプローチ、参加（主体的活動、役割）アプローチ、生活行為向上マネジメント	
A13	生活の活性化に向けたアプローチ	講義		日常生活の活性化に向けたアプローチを学ぶ	意欲の出る生活目標の設定、日常生活での作業・運動・役割の導入、通所移行、外出支援、地域参加促進	
A14	訪問リハにおけるリスク管理	講義		利用者におけるリスク管理と従事者のリスク管理を学ぶ	利用者のリスク管理（健康管理、急変時対応、転倒、ケガ等）、従事者のリスク管理（交通事故、感染、体調不良、クレーム等）	
A15	当事者目線でみた訪問リハのあり方	講義		当事者目線でみた訪問リハのあり方について学ぶ	当事者・家族体験談、学習性無力感、葛藤、失敗体験、立ち直るきっかけ、いきがい、ピアサポート、療法士への苦言・要望	
A16	地域連携とチームケア	講義		地域連携とチームケアを学ぶ	地域連携、チームケア、チームにおける役割、チーム力を上げる関わり、サービス担当者会議での役割、リハ的視点の提供	
A17	事例検討	演習		事例検討を通して、リハマネジメント手法を学ぶ	成功事例、失敗事例、困難事例、活動・参加につながった事例・つながらなかった事例、意欲低下、虐待	
A18	訪問リハトピックス	講義		訪問リハに関する各種トピックスについて学ぶ	診療・介護報酬改正、業界動向、訪問リハステーション、在宅リハビリテーション科学、各種アプローチ技術	
コード	医学的対応スキル	研修形態		概要	キーワード例	
A19	健康支援と疾病管理、医学的リスク管理	講義		医師及び看護師が行う健康支援や疾病管理、医学的リスク管理を学ぶ	健康支援、合併症予防、疾病毎の一般的な管理、診断の流れ、治療戦略、疾患毎の医学的リスク管理	
A20	在宅医療機器の基礎知識	講義・実技		在宅療養者が使用している医療機器の基礎知識や使い方・注意点を学ぶ	酸素濃縮器、携帯ボンベ、人工呼吸器、カフアシスト、吸引器、関連する環境調整、デモンストレーション	
A21	急変時の対応・救命救急法	講義・実技		急変時の対応・救命救急法を学ぶ	急変時の対応、救命救急法、心臓マッサージ、AED、救急車の要請	
A22	症状から学ぶフィジカルアセスメント	講義・実技		症状からフィジカルアセスメント・バイタルチェックのポイントを学ぶ	症状から学ぶフィジカルアセスメント、バイタルチェック、問診、視診、聴診、打診、触診、聴診器の使い方	
A23	服薬管理および薬の知識	講義		薬に対する知識と処方薬による情報収集スキルを身につける	服薬管理、処方内容からの病状把握、薬剤の種類と特徴、副作用、多剤投与の弊害	
A24	在宅における感染対策と対応	講義		在宅における感染予防と具体的な対策について学ぶ	清潔・不潔、対象者の感染予防（感染源、経路、抵抗力等）、支援者の感染予防（スタンダードプリコーション等）	
A25	在宅要介護者への吸引	講義・実技		在宅要介護者への吸引方法、リスク管理を学ぶ	吸引の基礎知識と具体的方法、吸引ガイドライン、リスク管理、医師・看護師との連携	
A26	疾患・障害別の専門的訪問リハ対応	講義		疾患・障害別の訪問リハの対応方法について学ぶ	脳血管障害、認知症、骨折、呼吸・循環器疾患、難病、末期がん、小児、精神障害、発達障害、知的障害、痛み、生活習慣病	
A27	状態別の専門的訪問リハ対応	講義		状態別の専門的訪問リハの対応方法について学ぶ	要支援者、中重度者、人工呼吸器、在宅酸素療法、術後、透析、吸引、カテーテル、ストマ、経管栄養、がん疼痛管理	
A28	病期別の専門的訪問リハ対応	講義		病期別の専門的訪問リハの対応方法について学ぶ	在院日数短縮と早期退院、在宅急性期、在宅回復期、生活期、在宅終末期とグリーフケア	
コード	生活コーディネートスキル	研修形態		概要	キーワード例	
A29	主体性を引き出すリハカウンセリングとコーチング	講義・演習		主体性を引き出すリハカウンセリングとコーチングを学ぶ	学習性無力感、主体性の賦活、カウンセリング、ピアカウンセリング、コーチング、成功体験、アイデンティティの再構築	
A30	生活の質を高める住環境整備	講義・実技		生活の質を高める住環境整備の基本的な進め方を学ぶ	住環境整備、生活場面別住宅改修、適合技術、住宅改修・改造助成制度（介護保険、障害者、自治体等）	
A31	可能性を拡げる福祉用具・補装具・自助具	講義・実技		生活の可能性を拡げる福祉用具・補装具・自助具の適合の基本と進め方を学ぶ	生活場面別福祉用具活用、適合技術、補装具、自助具、レンタル、各種給付制度、福祉用具体験	
A32	介護力を高める介助方法の伝達	講義・実技		介護者・介護サービス等への介助方法の伝達を学ぶ	介助方法の伝達、介護負担軽減、自立支援、介助者に合わせた対応	
A33	当事者としての介護者・家族支援	講義		当事者としての介護者・家族支援の仕方について学ぶ	当事者としての介護者・家族、葛藤、介護負担、家族のエンパワメント、家族の健康支援、虐待	
A34	事業所内及び事業所外その他職種・他サービス連携	講義		事業所内及び事業所外その他職種連携を学ぶ	事業所内連携、事業所外その他職種（医師、ケアマネ、介護士、看護師等）、他サービス（通所サービス、病院、老健等）	
A35	急性期・回復期・生活期リハにおける同職種連携	講義・演習		急性期・回復期・生活期リハにおける同職種連携を学ぶ	同職種連携、クリティカルパス、パーソナルパス、申し送り、情報提供	
A36	ケアマネジャーとの連携とケアプラン	講義		ケアマネジャーとの連携とケアプランを学ぶ	介護保険法、ケアマネジャー、ケアマネジメント、ケアプラン、サービス担当者会議、地域ケア会議	
A37	活動・参加を拡げる社会資源の理解と活用	講義		活動・参加を拡げる社会資源の活用の仕方を学ぶ	社会資源、インフォーマルサービス、訪問リハ卒業生、社会参加、社会資源の創造、当事者グループ	
A38	困難事例の対応の仕方	演習		困難事例の対応の仕方を学ぶ	本人の障害・病状、意欲低下、介護者及び家族、住環境、経済、療法士と本人・介護者の関係性、クレーム	

[illegible]

						研修会名
						研修テーマ
＜訪問リハビリテーション人材育成の基本骨格＞						主な対象者
①東日本大震災のような大規模災害が起こった時に、医師の指示がなくても対象者の全身状態を把握し、必要なりハビリテーションアプローチを提供できる療法士を育てる。						視点
②活動・参加につなぐリハビリテーションアプローチを提供し、主体的かつ生きがいのあるその人らしい人生の再建・地域参加を促す事ができる療法士を育てる。						実施主体
③これらの活動を通して、国民の生活の質の向上と医療・介護における社会保障費の抑制を推進し、社会に貢献していく。						研修目的
管理 研修 科目	コード	管理運営スキル STEP1	研修形態		概要	キーワード例
	B01	訪問リハを取り巻く制度的背景と求められる社会的役割	講義	1	制度的背景や厚生労働省からの意向も含めて学ぶ	地域包括ケアシステム、医療保険、介護保険、訪問リハ、訪問看護からの療法士の訪問、訪問リハへの期待
	B02	訪問リハ振興財団の活動と今後の展望	講義	1	訪問リハ振興財団の位置付けや活動、今後の展望、管理者要件について学ぶ	訪問リハ振興財団の位置付けと活動、特区訪問リハステーション、訪問リハステーション制度化、今後の展望
	B03	事業所管理者の心構えと求められる役割	講義・演習	1	一職員から管理職へどう意識や行動を変えていけばいいのかメンタルヘルスも含めて学ぶ	管理者の心構え、役割、リーダーシップ、意識・行動改革
	B04	管理者とスタッフ間のコミュニケーションのあり方	講義・演習	2	スタッフとどのようにコミュニケーションのとり、関係性を形成すべきかを学ぶ	管理者とスタッフの関係性、コミュニケーション技法、ストレングスアプローチ、リフレーミング、ナラティブアプローチ
	B05	活動・参加につながる在宅リハの考え方	講義・演習	2	活動・参加につながる在宅リハの考え方を学ぶ	学習性無力感、主体性、強み、弱み、ストレングスアプローチ、困難事例、リハビリテーションSWOT分析
	B06	ケアマネジメントと訪問リハのあり方	講義	1	自立支援ケアプランのあり方、ケアマネと訪問リハの連携、療法士に期待するを学ぶ	自立支援ケアプラン、ケアマネと訪問リハの連携、担当者会議、地域ケア会議
	B07	事業所内外の連携と地域ネットワーク作り	講義	1	事業所内及び事業所外での連携の実際と地域ネットワークの作り方を学ぶ	事業所内連携、事業所外連携、体制作り、ネットワーク作り、担当者会議、訪問看護、訪問介護、リハ視点の導入
	B08	事業所管理者の役割と組織作り	講義	1	小規模事業所管理者の役割と組織作りを経験者の実例を通して学ぶ	管理者の役割、組織化、実際の組織作り事例
	B09	事業所における教育研修体制の整備	講義	1	事業所内での訪問リハ教育研修体制整備のあり方について学ぶ	教育研修体制、スタッフ教育、目標管理、キャリアラダー、年間教育研修計画、人事考課
	B10	管理者としてどのように事業所内の人材育成を進めるか	ワークショップ	2	人材育成・教育研修のあり方をワークショップを通して学ぶ	教育研修体制、人材育成のポイント
		STEP2 予告	講義	0.3	STEP2研修会の意味や内容を予告する	
	コード	管理運営スキル STEP2	研修形態		概要	キーワード例
	B11	訪問リハ・通所リハの事業運営と法令順守	講義	1	訪問リハ事業所の制度的な事業運営の流れや必要な手続きを学ぶ	訪問リハ・通所リハ制度的システム、リハ計画、指示の流れ、医師との連携、実地指導・監査対応
	B12	訪問看護ステーションの事業運営と法令順守	講義	1	訪問看護の制度的な事業運営の流れや必要な手続き、看護との連携のあり方について学ぶ	訪問看護制度システム、看護師と療法士の連携、かかりつけ医との連携、実地指導・監査対応
	B13	管理者としてどのように法令を遵守した運営をしていくか	ワークショップ	2	法令を遵守する運営のポイントを理解し業務への応用の仕方を学ぶ	憲法、法律、地方自治体法令、医療保険、介護保険、道路交通法、就業規則
	B14	効率的な訪問事業運営のためのシステムの工夫	講義	1	訪問事業運営のための様々なシステムの工夫を知り、業務の効率化を学ぶ	新規の受入れから定期訪問へ、訪問スケジュール管理、訪問体制、稼働率、効果的な営業方法、業務改善
	B15	訪問リハにおけるICT活用	講義	1	訪問リハにおけるICTの活用の実際や可能性を学ぶ	ICT、医療・介護連携、電子カルテ、業務記録、労務管理、SNSの活用、アクティビティー
	B16	訪問リハ管理スキルアップトピックス	講義	1	訪問リハ管理スキルアップに関するトピックスを学ぶ	トピックス、診療報酬・介護報酬制度対応
	B17	事業所の健康支援とフィジカルアセスメント体制作り	講義	1	事業所における健康支援とフィジカルアセスメントスキルの向上及び体制作り	健康支援、フィジカルアセスメントスキルの向上、医学的リスク管理、医師・看護師との連携、体制作り
	B18	医療依存度の高い対象者への事業所としての対応方法	シンポジウム	2	医療依存度の高い対象者への事業所としての対応方法を学ぶ	医療依存度の高い難しい事例（難病・重度障害・小児・末期ガンなど）、事例報告、介護者支援
	B19	事業所の課題解決と組織化	講義	1	事業運営上の様々な課題をどう解決し、組織化を進めていくかを事業事例を通して学ぶ	事業所の組織化、システム作り、課題解決方法
	B20	管理者としての組織・システム作りを学ぶ	ワークショップ	2	組織作りやシステム作りの具体的な方法を学ぶ	事業所の組織化、システム作り、課題解決方法、SWOT分析
		STEP3 予告	講義	0.3	STEP3研修会の意味や内容を予告する	
	コード	管理運営スキル STEP3	研修形態		概要	キーワード例
	B21	訪問リハ財団が訪問リハ管理者に期待するもの	講義	1	訪問リハ振興財団が訪問リハ管理者に期待するものを総括的に学ぶ	地域包括ケア、事業所マネジメント、管理者（リーダー）の条件、訪問リハステーション管理者要件、期待
	B22	経営的視点と事業計画の立て方	講義・演習	2	経営管理に必要な専門知識や資料の読み方、部門事業計画の立て方を学ぶ	新規事業所開設、経営的視点、決算書の見方、事業計画立て方、経営分析
	B23	労務管理と就業規則	講義	1	労務管理の基本と就業規則について学ぶ（事前予習あり）	労務管理の基本、就業規則、所属先の就業規則
	B24	職員の人事管理と健康管理	講義	1	職員の人事管理の基本と健康管理を学ぶ	人事管理、労務管理、健康管理、メンタルヘルス、人事考課、働きやすい職場環境作り
	B25	事業所運営上のリスク・運営トラブルの管理の仕方	講義	1	事業を行ううえでの様々なリスクを知り、具体的な運営トラブルに対する対応方法を学ぶ	リスクマネジメントの基礎知識、事業リスク、訴訟事例、情報収集と要因分析、事故対応の要点
	B26	当事者・家族からみた在宅リハビリテーションのあり方	講義	1	当事者・家族からみた在宅リハビリテーション、人としての復権のあり方を学ぶ	当事者の体験談、当事者・家族の心理、日常生活の工夫、社会復帰、ピアサポート、当事者の可能性
	B27	訪問リハ対象者の就労支援・商い活動支援	講義	1	訪問リハ対象者の就労支援・商い活動支援を学ぶ	就労支援（復職、転職、就労移行支援事業等）、商い活動支援（内職・アルバイト・有償ボランティア等）、いきがしい作り
	B28	介護予防・日常生活支援総合事業における療法士の役割	講義	1	介護予防・日常生活支援総合事業における療法士の役割を学ぶ	介護予防・日常生活支援総合事業、療法士の役割、地域ケア会議、地域リハ活動支援事業、訪問C
	B29	訪問リハ事業所の運営のあり方	ワークショップ	2	管理者としてのあり方や事業所運営のあり方をより具体的に理解し今後に活かせる	事業所運営、スタッフ管理、利用者管理、経営管理
	B30	管理者としての志を立てる！	演習	1	STEP1～3を通して、管理者としての自分の志を立て、グループや全体で共有する	管理者としての志・目標、管理者像
	B31	認定テスト	筆記テスト	1	管理者としての資質をテストの実施を通して確認する	STEP1～3及び実戦での管理者としての学びの確認、管理運営マネジメントのポイント
		管理者研修会 予告	講義	0.3	管理者研修会の意味や内容を予告する	
上級 管理 研修 科目	コード	管理者ステップアップスキル	研修形態		概要	キーワード例
	C01	地域包括ケアにおける療法士の可能性と期待すること	講義	1	地域包括ケアにおける療法士の可能性と期待することについて学ぶ	社会保障制度改革、地域包括ケアシステム、訪問リハステーション、療法士の可能性、地域リハコーディネーター
	C02	訪問リハトピックス	講義	1	訪問リハに関する最新のトピックスを学ぶ	診療報酬・介護報酬制度対応、災害時対策と備え、在宅リハビリテーション科学、訪問リハに関するトピックス
	C03	訪問事業所の管理者としての実践報告	シンポジウム	2	訪問リハ事業所及び訪問看護ステーションの管理者の実践報告から学ぶ	訪問リハ事業所、訪問看護事業所、実践報告、サービス管理、スタッフ管理、経営者との関係性
	C04	管理者ネットワーク作りのためのナイトセミナー	演習	1	参加者同士のネットワーク作りと情報交換を行う	管理者ネットワーク作り、管理業務における感情の共有、ワールドカフェ
	C05	訪問療法士が主体的に参画するまちづくり活動	講義	1	訪問療法士が主体的に参画するまちづくり活動について学ぶ	まちづくりへの参画、行政・医師会・看護協会等との連携、地域向け自立支援研修会の開催、住民への教育・啓発
	C06	医療・介護保険外サービスの展開と可能性	講義	1	医療・介護保険外サービスの展開と可能性を学ぶ	医療・介護保険外サービス、自費リハ、教育的リハ、職業的リハ、人材派遣、コンサルティング
	C07	管理者として運営管理で困っている事	ワークショップ	2	管理者として管理運営に携わり困っていることを共有し、整理分類する	経営管理、スタッフ管理、営業管理、利用者管理、他事業所との連携、管理者のメンタルヘルス

作成：訪問リハビリテーション振興財団 2018

－第5章－ シラバス

第4章の研修会カリキュラムフレームの研修科目一つひとつを詳細に説明し「シラバス」とし、平成26年度からは本シラバスを使用して、訪問リハビリテーション管理者養成研修会および訪問リハビリテーション管理者研修会を企画・運営し、各都道府県で開催される訪問リハビリテーション実務者研修会の企画に関しても本シラバスを参照頂き運営をお願いしていた。

下記はシラバスの読み方を参照したもの。次項以降は訪問リハビリテーション実務者研修会、訪問リハビリテーション管理者養成研修会および訪問リハビリテーション管理者研修会の順にシラバスを掲載する。

No.	※識別コード: 管理上の番号			
研修科目名	※カリキュラムフレームの研修科目が表示			
研修会名	※研修会の種類が表示	※研修会のレベルが表示	研修形態	※理想の研修形態を表示
研修種別	※研修科目の種類が表示	※研修科目の分類が表示	研修時間	※研修時間の目安を表示
講師例	※研修科目の講義に相応しい講師例を表示			
概要	※研修科目の概要を表示			
到達目標	※受講者の到達目標を表示			
講義内容	※講義に取り入れていただきたい内容を表示			
備考				

訪問リハビリテーション 実務者研修会

シラバス

研修科目名	A01	地域包括ケアシステムにおける訪問リハの役割		
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	医療・介護保険制度に精通する者、行政担当者			
概要	地域包括ケアシステムにおける訪問リハ役割について学ぶ			
到達目標	地域包括ケアシステムにおける訪問リハ役割について理解し、実践できる			
講義内容	1. 少子高齢社会 2. 地域包括ケアシステム 3. 自助・互助・共助・公助 4. 市区町村介護保険計画 5. 社会における訪問リハの役割			
備考				

研修科目名	A02	訪問リハ振興財団の活動と訪問リハ人材育成ガイドライン		
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	60分
講師例	訪問リハビリテーション振興財団役員及び委員			
概要	訪問リハ振興財団の活動と訪問リハ人材育成ガイドラインを学ぶ			
到達目標	訪問リハ振興財団の活動と訪問リハ従事者のための人材育成ガイドラインを理解することができる 訪問療法士としてのキャリアデザインをイメージできる			
講義内容	1. 訪問リハ振興財団の組織と活動 2. 訪問リハ人材育成ガイドライン 3. 都道府県 訪問リハ実務者研修会 4. 訪問リハ管理者養成研修会STEP1～3 5. 訪問リハ管理者研修会			
備考				

研修科目名	A03	訪問リハに関連する介護保険・医療保険等制度		
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	医療・介護保険制度に精通するPT、OT、ST			
概要	訪問リハに関連する介護保険・医療保険等制度を学ぶ			
到達目標	訪問リハの背景となる介護保険や医療保険を理解し、法令を順守した運営ができる 医師やケアマネジャーと連携し、チームケアの一環としての訪問リハが行える			
講義内容	1. 介護保険制度、医療保険制度と加算対応 2. 障害者総合支援制度 3. 各制度の仕組み 4. 医師・ケアマネジャーとの連携 5. 法令順守			
備考				

研修科目名	A04	訪問療法士としての倫理・役割・心構え		
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	事業所管理者またはその経験のあるPT、OT、ST			
概要	専門職として、組織人として、人としての倫理・役割・心構えを学ぶ			
到達目標	訪問療法士として高い倫理観を持って日常業務に臨めるようになる			
講義内容	1.専門職として、組織人として、人としての倫理・役割・心構え 2.訪問療法士の社会的責務 3.訪問リハにおける法令順守 4.訪問療法士が行う地域貢献			
備考				

研修科目名	A05	訪問リハ実践の基本的考え方		
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所で勤務するPT、OT、ST			
概要	訪問リハの基本的な見方、考え方を学ぶ			
到達目標	訪問リハの実践に必要な基本的な考え方を理解することができる 強みに焦点をあてるストレングスモデルを理解することができる			
講義内容	1.訪問リハの専門性 2.在宅支援の基本 3.対象者のニーズとホープ 4.ICF（国際生活機能分類）の構成要素と構成概念 5.リハビリテーションの理念に基づくマネジメント 6.強みに焦点をあてるストレングスモデル			
備考	※ストレングスモデル：対象者の強みに焦点を当てて、生活課題を解決する方法論のこと ※参考文献：チャールズ・A・ラップ：ストレングスモデル、2014			

研修科目名	A06	新規訪問のための準備から初回訪問の組立		
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所で勤務するPT、OT、ST			
概要	新規利用者への訪問準備から初回訪問の組立を学ぶ			
到達目標	新規利用者の申し込み受付から初回訪問までの流れを理解する 携帯品の種類と使い方を理解する			
講義内容	1.新規利用者対応と訪問準備 2.携帯品と使い方 3.初回訪問の組立 4.記録・書類作成 5.医師・看護師との連携			
備考				

研修科目名	A07	当事者の学習性無力感と主体性の回復		
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所で勤務するPT、OT、ST			
概要	当事者の学習性無力感と主体性の回復について学ぶ			
到達目標	当事者が主体性を失ったプロセスを理解し、戦略的に主体性を回復させる方法論を理解する			
講義内容	1.学習性無力感と抑うつ 2.主体性の回復とストレングスアプローチ 3.ストレングスアプローチと意欲の沸く生活目標 4.生活における成功体験と自己効力感の回復 5.ピアサポート			
備考	※学習性無力感：長期にストレス回避困難な環境に置かれた人は、その状況から逃れようとする努力を行わなくなるという現象 ※ストレングスアプローチ：その人の強みを活かして生活課題を解決するアプローチのこと			

研修科目名	A08	訪問リハ評価からリハプログラムの立案		
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義・実技
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所で勤務するPT、OT、ST			
概要	訪問リハ評価からプログラムの立案までの流れを学ぶ			
到達目標	訪問リハ評価から意欲の出る生活目標、リハプログラムの立案までの流れが理解できる			
講義内容	1.訪問リハ評価 2.強み評価 3.生活機能予後の予測 4.意欲の出る生活目標の立て方 5.リハプログラムの立案 6.リハビリテーション実施計画・訪問看護計画の作成			
備考	※生活機能予後：心身機能予後、活動予後、参加予後からなるが、本人の健康状態の予後や介護者の健康状態も含め予後予測をして目標設定を考える。			

研修科目名	A09	訪問リハで有用な評価指標と効果判定		
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所で勤務するPT、OT、ST			
概要	訪問リハで有用な評価指標と効果判定について学ぶ			
到達目標	訪問リハで有用な評価指標を理解し、利用者の状態変化を客観的な指標で表現できるようになる 今後の科学的介護の流れに沿った業務の組み立てを理解する			
講義内容	1.これからの科学的介護の流れ 2.認知機能評価と高次脳機能評価 3.身体機能評価 4.ADL評価（FIM、BI）、IADL評価（FAI等） 5.生活圏評価（LSA等） 6.その他			
備考				

研修科目名	A10	訪問リハ事業所、訪問看護事業所の運営の実際		
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	事業所管理者またはその経験のあるPT、OT、ST			
概要	訪問リハ事業所（病院・老健・介護医療院）・訪問看護事業所の運営の実際を知る			
到達目標	訪問リハ事業所及び訪問看護事業所の運営の実際を理解する			
講義内容	1.訪問リハ事業所（病院・老健・介護医療院）の運営の実際 2.訪問看護ステーションの運営の実際 3.医療保険・介護保険におけるシステム			
備考				

研修科目名	A11	接遇・対人援助技術		
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義・実技
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	企業向け接遇研修の講師、または接遇・対人援助技術の指導をしたことがあるPT、OT、ST			
概要	接遇及び対人援助技術について学ぶ			
到達目標	事業所の顔として地域で活動するときの留意すべきポイントを理解する 利用者に信用されるスキルを知り、実践につなげることができる			
講義内容	1.サービス業としての接遇 2.ビジネスマナー 3.訪問時のマナー 4.対人援助技術 5.クレーム対応			
備考				

研修科目名	A12	心身機能・活動・参加に対するアプローチの実際		
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所で勤務するPT、OT、ST			
概要	心身機能・活動・参加に対するアプローチの実際を学ぶ			
到達目標	心身機能・活動・参加に対するアプローチを学び、臨床で応用することができる 生活行為向上マネジメントの概要を知る			
講義内容	1.ICFの構成要素と構成概念 2.心身機能アプローチ 3.活動（ADL・IADL）アプローチ 4.参加（主体的活動、役割）アプローチ 5.生活行為向上マネジメント			
備考	※参考文献：ICF国際機能分類－国際障害分類改訂版－2002			

研修科目名	A13	生活の活性化に向けたアプローチ		
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所で勤務するPT、OT、ST			
概要	日常生活の活性化に向けたアプローチを学ぶ			
到達目標	日常生活の活性化に向けたアプローチを理解し、実践できる			
講義内容	1.意欲の出る生活目標の設定 2.日常生活での作業・運動・役割の導入 3.通所系サービス等への移行 4.外出につなげるためのリハビリプログラム 5.地域参加を促進するためのリハ支援			
備考				

研修科目名	A14	訪問リハにおけるリスク管理		
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	事業所管理者またはその経験者、看護師			
概要	利用者におけるリスク管理と従事者のリスク管理を学ぶ			
到達目標	利用者におけるリスク管理と従事者におけるリスク管理を理解することができる			
講義内容	1.利用者のリスク管理（健康管理、急変時対応、転倒、ケガ等） 2.従事者のリスク管理（交通事故、感染、体調不良、クレーム等）			
備考				

研修科目名	A15	当事者目線でみた訪問リハのあり方		
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	病気や障害のある当事者または家族			
概要	当事者目線でみた訪問リハのあり方について学ぶ			
到達目標	当事者からみた急性期から生活期までの流れと療法士の対応の是非を理解する 当事者・家族の心理状態の実態を理解する			
講義内容	1.当事者・家族体験談（急性期、回復期、生活期） 2.失敗体験、学習性無力感、葛藤 3.立ち直るきっかけ 4.ピアサポート 5.いきがい 6.療法士への苦言・要望			
備考	※当事者の選定においては、自分以外の例も知っており、バランスの取れた発言ができる人が望ましい。 ※90分間の講義が難しい場合は、コーディネーターを立てて、質疑応答を入れる			

研修科目名	A16	地域連携とチームケア		
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	事業所管理者またはその経験のあるPT、OT、ST			
概要	地域連携とチームケアを学ぶ			
到達目標	地域におけるケアチームと療法士の役割を理解する			
講義内容	1.地域連携とチームケア 2.チームにおける訪問療法士の役割 3.訪問療法士のチーム力を上げる関わり 4.サービス担当者会議での役割 5.リハ的視点の提供			
備考				

研修科目名	A17	事例検討		
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	演習
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	120～180分
講師例	事業所管理者またはその経験のあるPT、OT、ST			
概要	事例検討を通して、リハマネジメント手法を学ぶ			
到達目標	様々な事例検討を通して、オーダーメイドに対応できるリハマネジメントの手法を学ぶ 事例発表者は、まとめや発表、参加者からの助言を総合し、事例への対応力を高める			
講義内容	1.成功事例、失敗事例、困難事例 2.活動・参加につながった事例・つながらなかった事例 3.意欲が低下した事例と対応のあり方 4.虐待のある事例と対応のあり方			
備考	※経験年数の少ない療法士が事例発表者になるのがよりよい			

研修科目名	A18	訪問リハトピックス		
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	訪問リハに関するトピックスの講演ができる者			
概要	訪問リハに関する各種トピックスについて学ぶ			
到達目標	訪問リハに関する各種トピックスについて学ぶことができる			
講義内容	1.診療・介護報酬改正 2.業界動向について 3.訪問リハステーション 4.在宅リハビリテーション科学 5.各種アプローチ技術			
備考	※在宅リハビリテーション科学：高齢者や病気・障害を負った人に起こる様々な現象を科学的な視点でとらえて、予測的、系統的にマネジメントする方法論を構築していく学問体系のこと。			

研修科目名	A19	健康支援と疾病管理、医学的リスク管理		
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	医学的対応スキル	研修時間	90分
講師例	在宅を専門とする医師及び看護師			
概要	医師及び看護師が行う健康支援や疾病管理や医学的リスク管理を学ぶ			
到達目標	医師・看護師の病気の見方や考え方の違いを知り、対象者の医学的リスク管理のポイントを理解する			
講義内容	1. 医師及び看護師が行う健康支援・疾病管理 2. 診断の流れと治療戦略 3. 生活習慣病対策 4. 疾患毎の医学的リスク管理 5. 終末期対応 6. 医師・看護師が訪問療法士に期待すること			
備考				

研修科目名	A20	在宅医療機器の基礎知識		
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義・実技
研修種別	専門研修科目	医学的対応スキル	研修時間	90-120分
講師例	在宅を専門とする医師及び看護師、精通したPT、OT			
概要	在宅療養者が使用している医療機器の基礎知識や使い方・注意点を学ぶ			
到達目標	在宅で使用している医療機器の正しい取り扱いと使用方法について理解ができる 異変時に医師や看護師、関係者に相談できる			
講義内容	1. 酸素濃縮器及び携帯酸素ボンベ 2. 人工呼吸器及びカフアシスト 3. 吸引器 4. 関連する環境整備 5. 医療機器のデモンストレーション 6. その他			
備考	※医療機器事業者に参加してもらくと、実際に体験が可能			

研修科目名	A21	急変時の対応・救命救急法		
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義・実技
研修種別	専門研修科目	医学的対応スキル	研修時間	180分
講師例	救命救急士、一次救命処置に精通した医師、看護師、PT、OT			
概要	急変時の対応・救命救急法を学ぶ			
到達目標	心臓マッサージやAED等の急変時の対応ができるようになり、人命救助に貢献できる 急変時、救急車や医療機関に適切につなぐことができる			
講義内容	1. 急変時の対応 2. 救命救急法 3. 心臓マッサージ 4. AED 5. 救急車の要請			
備考	※救命救急法は、いざというときに迅速かつ正確に対応できるように、定期的に反復して学ぶ			

研修科目名	A22	症状から学ぶフィジカルアセスメント		
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義・実技
研修種別	専門研修科目	医学的対応スキル	研修時間	120-180分
講師例	医師または、訪問看護事業所で勤務する看護師、精通したPT、OT、ST			
概要	症状からフィジカルアセスメント・バイタルチェックのポイントを学ぶ			
到達目標	対象者の症状からフィジカルアセスメントを深めて大まかな原因を探ることができる 医師や看護師に的確な相談や情報提供ができるようになる			
講義内容	1.在宅要介護者にみられやすい疾病と症状 2.フィジカルアセスメントの基礎知識 3.バイタルチェック 4.問診、視診、聴診、打診、触診 5.聴診器の使い方 6.医師・看護師との連携			
備考				

研修科目名	A23	服薬管理および薬の知識		
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	医学的対応スキル	研修時間	90分
講師例	医師・薬剤師・看護師			
概要	薬に対する知識と処方薬による情報収集スキルを身につける			
到達目標	対象者の服薬状況や病状を把握できるようになる 対象者の状態から医師・薬剤師・看護師に服薬相談ができるようになる			
講義内容	1.服薬管理の基礎知識 2.薬剤の種類と特徴及び副作用 3.処方内容からの病状把握 4.多剤投与による弊害と対策			
備考				

研修科目名	A24	在宅における感染対策と対応		
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	医学的対応スキル	研修時間	90分
講師例	医師または訪問看護事業所で勤務する看護師			
概要	在宅における感染予防と具体的な対策について学ぶ			
到達目標	感染予防と具体的な対策について理解し、実践することができる			
講義内容	1.清潔・不潔の概念 2.対象者の感染予防（感染源、経路、抵抗力等） 3.支援者の感染予防（スタンダード・プリコーション等） 4.事業所における感染対策マニュアル			
備考				

研修科目名	A25	在宅要介護者への吸引		
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義・実技
研修種別	専門研修科目	医学的対応スキル	研修時間	90-120分
講師例	医師または訪問看護事業所で勤務する看護師			
概要	在宅要介護者への吸引方法、リスク管理を学ぶ			
到達目標	在宅要介護者への吸引方法やリスクを理解し、実践できる			
講義内容	1.吸引の基礎知識と具体的方法 2.吸引に関するガイドライン 3.起こりやすいトラブルとリスク管理 4.医師・看護師との連携			
備考				

研修科目名	A26	疾患・障害別の専門的訪問リハ対応		
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	医学的対応スキル	研修時間	90分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所で勤務するPT、OT、ST			
概要	疾患・障害別の訪問リハの対応方法について学ぶ			
到達目標	疾患別の訪問リハの対応方法を理解し、効果的なアプローチを行うことができる			
講義内容	1.脳血管障害、認知症 2.高齢者の骨折 3.呼吸・循環器疾患 4.難病、小児疾患、末期がん 5.精神障害、発達障害、知的障害 6.痛み、生活習慣病等			
備考				

研修科目名	A27	状態別の専門的訪問リハ対応		
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	医学的対応スキル	研修時間	90分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所で勤務するPT、OT、ST			
概要	状態別の専門的訪問リハの対応方法について学ぶ			
到達目標	状態を理解しリスクを軽減しながら、訪問リハを提供することができる			
講義内容	1.要支援者および中重度者への対応 2.人工呼吸器、在宅酸素療法利用者への対応 3.透析利用者への対応 4.尿道カテーテル、ストマ(人工肛門・人工膀胱) 5.経管栄養法(経鼻栄養、胃ろう、腸ろう、食道ろう) 6.ガン疼痛管理とガイドライン			
備考				

研修科目名	A28	病期別の専門的訪問リハ対応		
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	医学的対応スキル	研修時間	90分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所で勤務するPT、OT、ST			
概要	病期別の専門的訪問リハの対応方法について学ぶ			
到達目標	病期に合わせた専門的訪問リハ対応が実践できるようになる			
講義内容	1.在院日数短縮と早期退院 2.在宅急性期（肺炎、膀胱炎、転倒後疼痛、軽度脳血管疾患等） 3.在宅回復期（急性期からの退院、心身機能回復、ADL・IADL回復） 4.生活期（生活混乱期、生活安定期、生活拡大期） 5.在宅終末期とグリーフケア			
備考				

研修科目名	A29	主体性を引き出すリハカウンセリングとコーチング		
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義・実技
研修種別	専門研修科目	生活コーディネートスキル	研修時間	90分
講師例	対象者の主体性を引き出すカウンセリングやコーチングに精通したPT、OT、ST			
概要	主体性を引き出すリハカウンセリングとコーチングを学ぶ			
到達目標	対象者の無力感を予防し、主体性を引き出せる訪問リハを実践できる			
講義内容	1.学習性無力感と主体性の賦活 2.カウンセリングとピアカウンセリング 3.主体性を活かしたコーチング 4.成功体験とアイデンティティの再構築			
備考	※学習性無力感：長期にストレス回避困難な環境に置かれた人は、その状況から逃れようとする努力を行わなくなるという現象 ※アイデンティティの再構築：元の自分に戻るのではなく、新しい自分になろうとする意識改革			

研修科目名	A30	生活の質を高める住環境整備		
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義・実技
研修種別	専門研修科目	生活コーディネートスキル	研修時間	90分
講師例	住宅改修事業者、住環境整備に精通したPT、OT、ST			
概要	生活の質を高める住環境整備の基本的な進め方を学ぶ			
到達目標	住環境整備に精通したPT、OT、ST			
講義内容	1.住環境整備の基本と適合技術 2.生活場面別住宅改修と環境調整 3.住宅改修・改造助成制度（介護保険、障害者、自治体等）			
備考				

研修科目名	A31	可能性を拡げる福祉用具・補装具・自助具		
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義・実技
研修種別	専門研修科目	生活コーディネートスキル	研修時間	90-120分
講師例	福祉用具・補装具・自助具に精通したPT、OT、ST、義肢装具士			
概要	生活の可能性を拡げる福祉用具・補装具・自助具の適合の基本と進め方を学ぶ			
到達目標	福祉用具・補装具・自助具の適合技術を学習し、生活の可能性を拡げる提案ができる 制度システムを理解し、関係各所に適切につなぐことができる			
講義内容	1.生活場面別の福祉用具活用 2.適合技術 3.補装具、自助具 4.介護保険レンタル及び各種給付制度 5.福祉用具体験			
備考	※福祉用具貸与事業者に協力依頼をすれば、実技研修が可能			

研修科目名	A32	介護力を高める介助方法の伝達		
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義・実技
研修種別	専門研修科目	生活コーディネートスキル	研修時間	90-120分
講師例	介助方法の指導に精通したPT、OT、ST			
概要	介護者・介護サービス等への介助方法の伝達を学ぶ			
到達目標	24時間の生活の流れや様々な生活場面での介助方法を考えることができる 対象者や介護者に適した介助方法を選択し、適切に伝達することができる			
講義内容	1.介助状況の評価と介助方法の伝達 2.介護負担軽減のための戦略 3.自立支援につながる介助方法 4.介護者に合わせた対応			
備考				

研修科目名	A33	当事者としての介護者・家族支援と虐待予防		
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	生活コーディネートスキル	研修時間	90分
講師例	在宅支援をしている社会福祉士、介護者・家族支援に精通したケアマネジャー、看護師			
概要	当事者としての介護者・家族支援の仕方について学ぶ			
到達目標	介護者や家族を当事者としてとらえることができ、必要なケアが行えるようになる			
講義内容	1.当事者としての介護者・家族 2.葛藤及び介護負担と家族のエンパワーメント 3.家族の健康支援 4.虐待を行う心理と効果的対策			
備考				

研修科目名	A34	事業所内及び事業所外の他職種・他サービス連携		
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	生活コーディネートスキル	研修時間	90分
講師例	在宅支援を実践されている医療・介護専門職で、連携・協働に精通している方			
概要	事業所内及び事業所外の他職種連携を学ぶ			
到達目標	関連職種・関連サービスと一人の利用者をチームで支援する方法について理解することができる			
講義内容	1.事業所内連携 2.事業所外の他職種（医師、ケアマネ、介護士、看護師等） 3.他サービス（通所サービス、病院、老健等）			
備考				

研修科目名	A35	急性期・回復期・生活期リハにおける同職種連携		
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義・演習
研修種別	専門研修科目	生活コーディネートスキル	研修時間	90分
講師例	急性期・回復期・生活期の経験のあるPT、OT、ST			
概要	急性期・回復期・生活期リハにおける同職種連携を学ぶ			
到達目標	急性期・回復期・生活期に必要なクリティカルパスとパースナルパスを理解することができる			
講義内容	1.同職種連携 2.クリティカルパスとパースナルパス 3.申し送り及び情報提供			
備考	※パースナルパス：そのひとらしさの回復に必要な急性期・回復期・生活期での段階的な道筋			

研修科目名	A36	ケアマネジャーとの連携とケアプラン		
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	生活コーディネートスキル	研修時間	90分
講師例	経験豊富なケアマネジャー、包括支援センターの主任ケアマネジャー			
概要	ケアマネジャーとの連携とケアプランを学ぶ			
到達目標	ケアマネジメントを理解し、ケアマネジャーと良好なチームを組むことができる サービス担当者会議や地域ケア会議で、自立支援の観点から提案やアドバイスができる			
講義内容	1.介護保険法とケアマネジャーの位置づけ 2.ケアマネジメントとケアプランの実際 3.サービス担当者会議 4.地域ケア会議			
備考				

研修科目名	A37	活動・参加を拡げる社会資源の理解と活用		
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	生活コーディネートスキル	研修時間	90分
講師例	在宅支援を実践している社会福祉士、包括支援センターの主任ケアマネジャー			
概要	活動・参加を拡げる社会資源の活用の仕方を学ぶ			
到達目標	社会資源の把握方法、その活用する方法について理解することができる			
講義内容	1.社会資源とインフォーマルサービス 2.訪問リハ卒業先と社会参加 3.社会資源の創造 4.当事者グループ			
備考				

研修科目名	A38	困難事例の対応の仕方		
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	演習
研修種別	専門研修科目	生活コーディネートスキル	研修時間	120分
講師例	訪問リハに熟練したPT、OT、ST			
概要	困難事例の対応の仕方を学ぶ			
到達目標	難渋する症例のパターンを把握し、具体的な対応方法を理解することができる			
講義内容	1.本人の障害・病状及び意欲低下 2.介護者及び家族の介護機能の低下 3.住環境及び経済面での課題 4.療法士と本人・介護者の関係性 5.クレーム			
備考				